

372

248

通俗講話

第十一編

蚊

の  
話

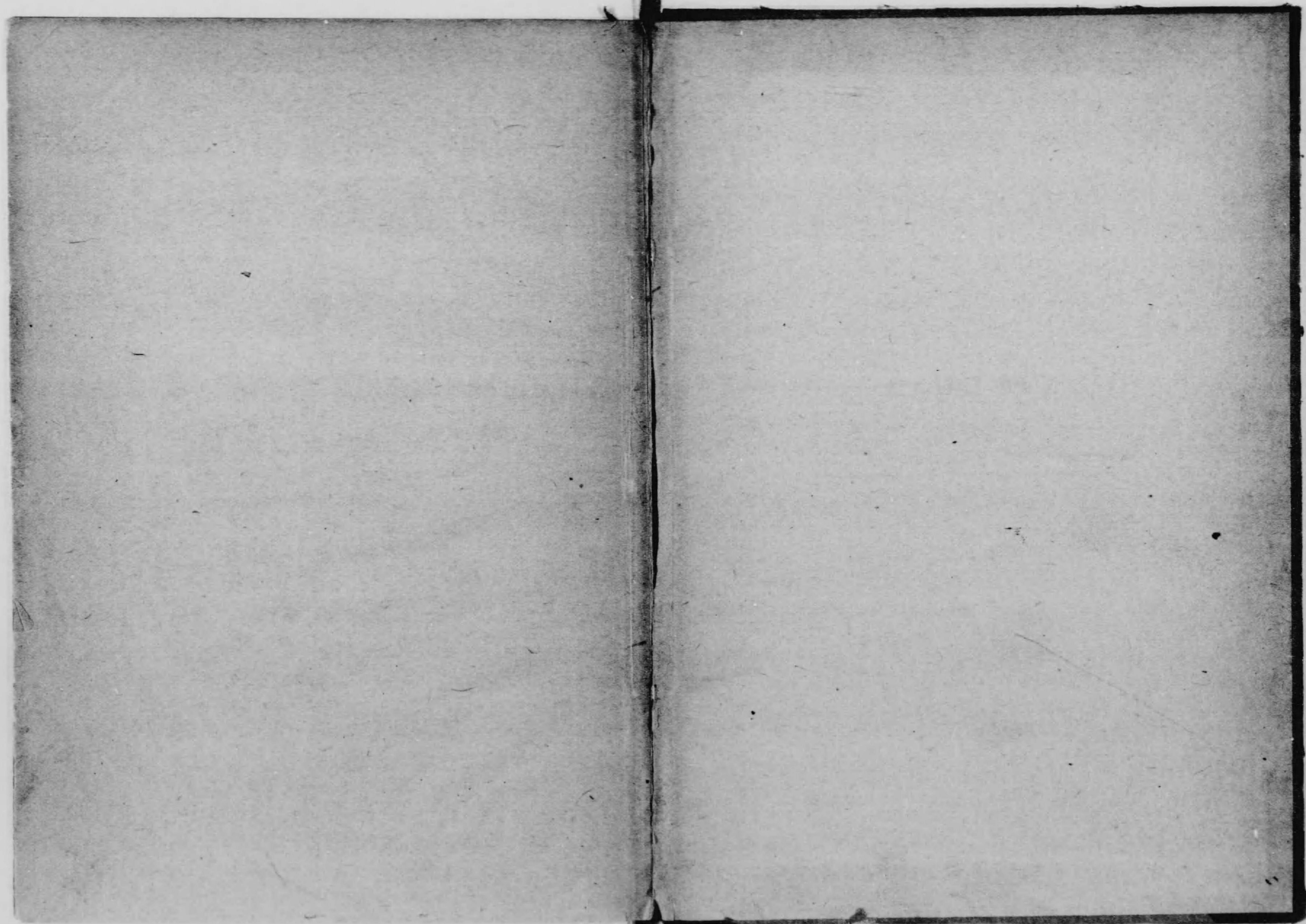
富山縣教育會



始









通 俗 講 話

第 十 壹 編

納  
本

蚊  
の  
話

野  
村  
豊  
繁  
編

射水郡大門尋常小學校訓導

富 山 縣 教 育 會



372-248



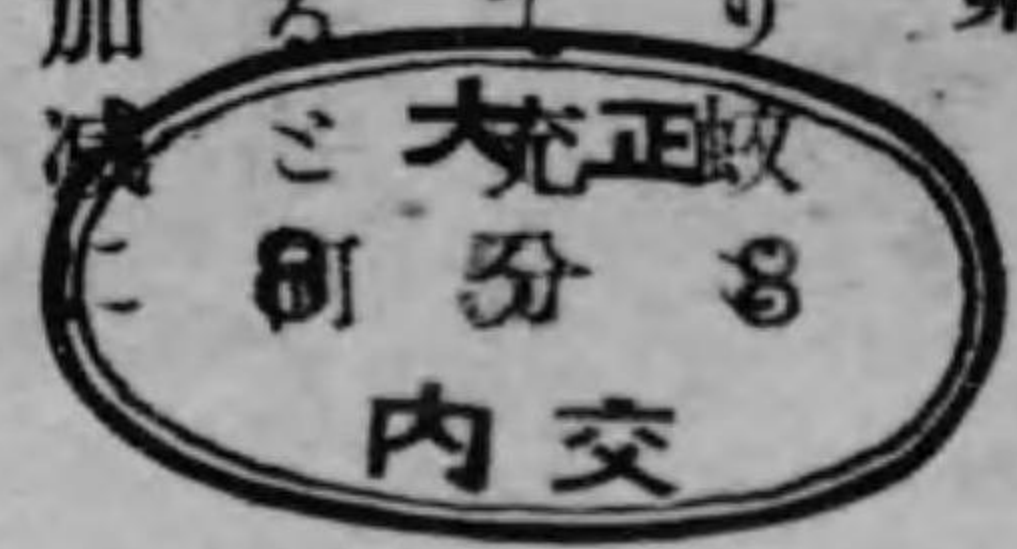
# 通俗講話 蚊の話

射水郡大門尋常小學校訓導 野村 豊 繁

昔から蚊に困る蚊も亦困る團扇かな云ふ句のある通り  
云ふものは誠にうるさい蟲であります夏は晝の間は暑くて  
に勉強も出来ないものですから夕方涼しくなつて机に寄る  
處からさもなくブーンと耳元や手足を襲つてきます好い加減に

打つちやつて置くといよ／＼圖に乗つて處嫌らはず刺して血を  
吸ひます折角何かしやうと思つてゐてもすつかり邪魔されて仕  
舞ひます蚊に刺されれば最も大事な血液を澤山吸はれるばかり  
でなく其の跡が非常に痒ゆい爲につい搔きこはして腫物になつ

蚊の話





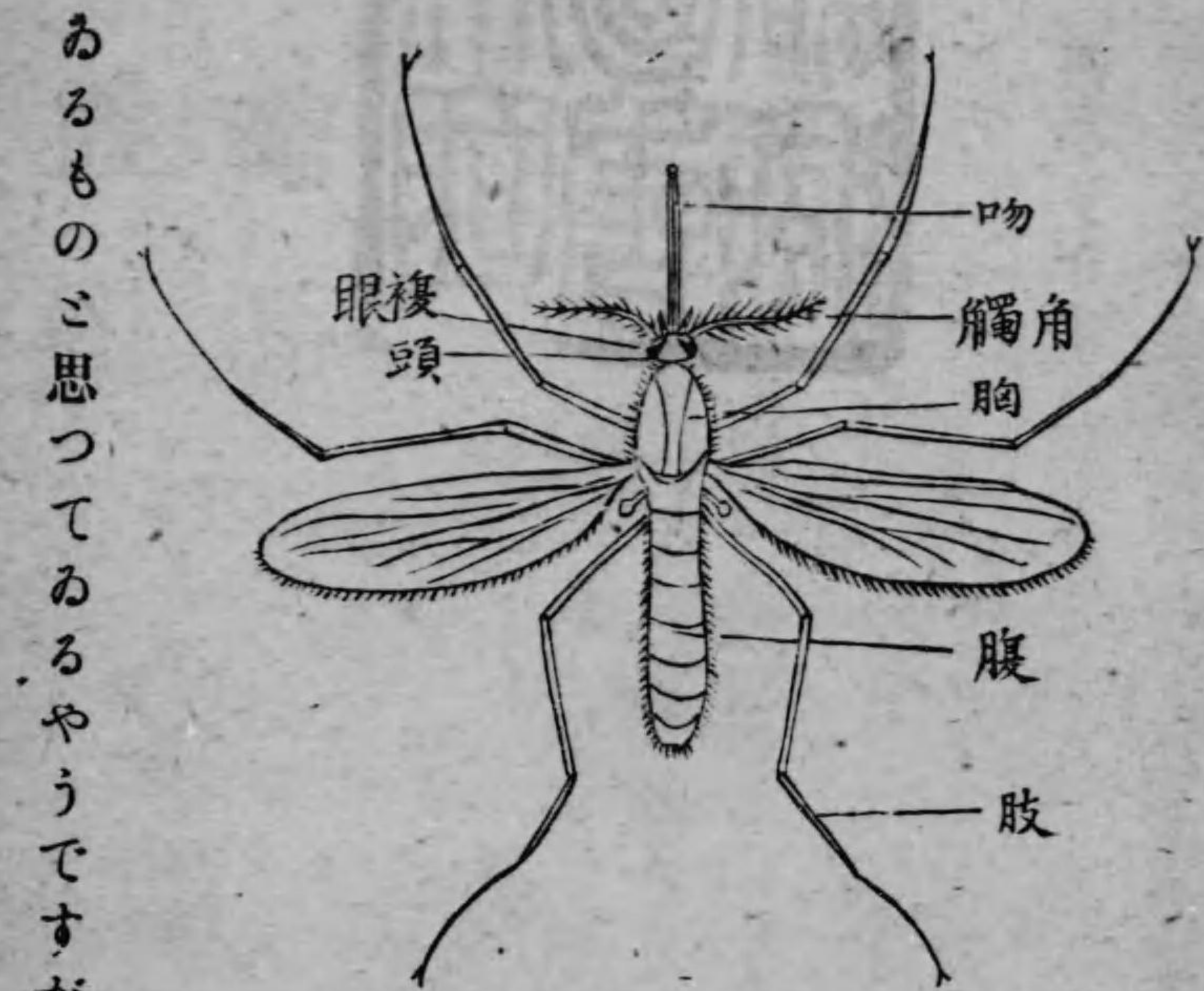
たり又種々な傳染病も蚊の媒介によるものがあります。今からその

蚊について少し許りお話いた

しませう。

蚊は生きる爲に血を

吸ふのではない



御承知の通り蚊は昆蟲類に屬し針狀の吻を持つてゐて血を吸ふのに適してゐます。蚊は人間の血を吸つて生きてゐるやうであります。實際はさうではありません。大抵の人は皆蚊は人間の血を吸つて生きてゐるものと思つてゐるやうですが、それは大なる誤であります。そ

れでは何を食つて生きてゐるのかと申します。主として植物の液汁を吸ふのであります。殊に雄の方は決して血を吸ふことはなく、植物性の液汁ばかり吸つて生きてゐます。只雌が産卵する前に血を吸ふのでその時は人間の血は勿論、鳥獸の様な温かい動物の血をも吸ひますが、産卵前の外は決して血を吸ふことはないのであります。

蚊の口器



従つて人間の側へ來るのは皆雌で、しかも産卵前の雌であつて、雄は決して人間を襲ふて刺すやうなことはありません。雄は吻の構造をみても、人間の皮膚を刺すには適してゐないことが分ります。昔から動物學者がよく蚊を飼養した人がありますが、その時には梨とか桃、林檎のやうな果物や砂糖水を與へて置きます。蚊はまた酒の側へよく寄る



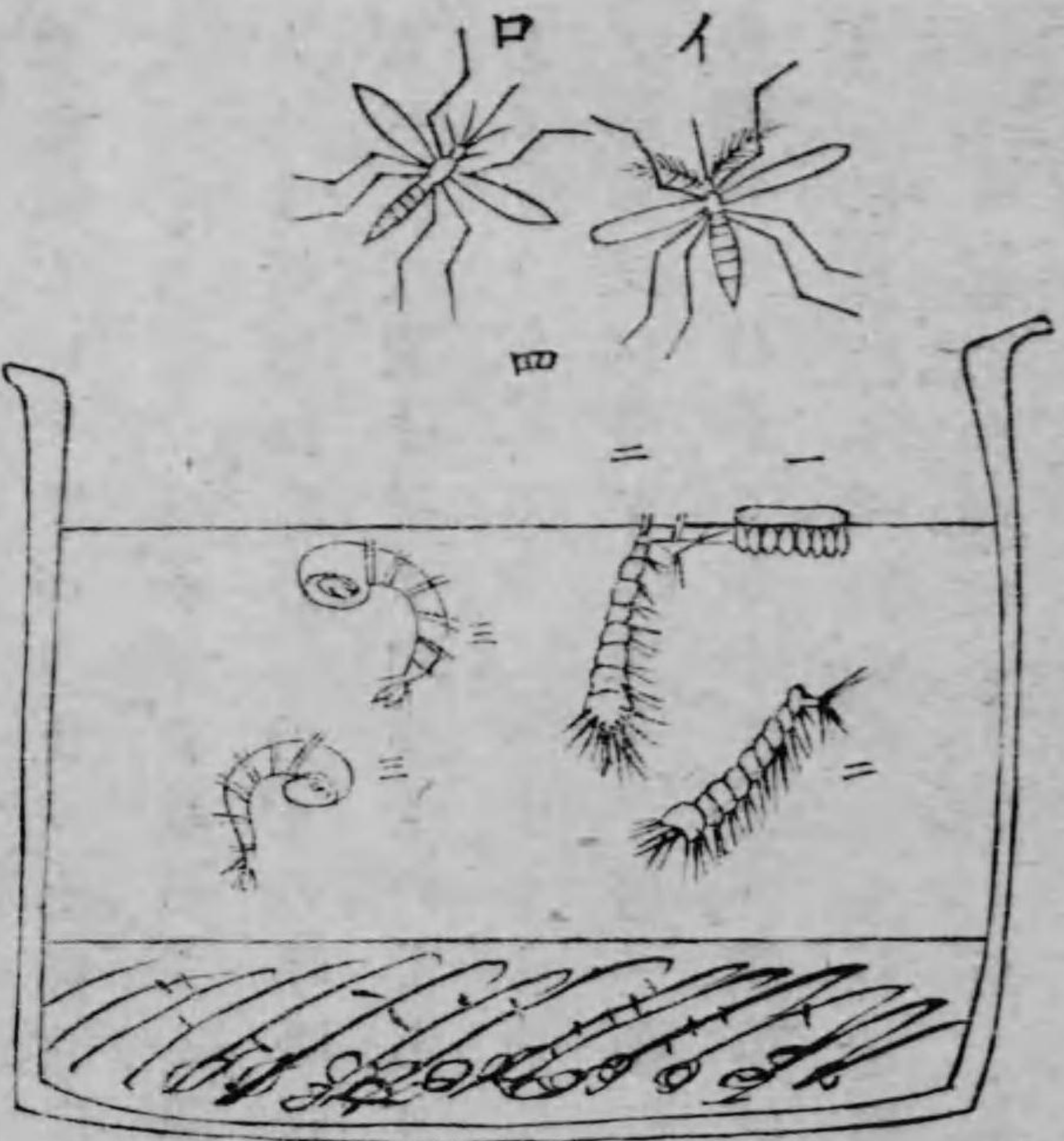
もので、酒店とか酒樽のある場所には、よく集るものであります。だから蠅取瓶の中へ酒を入れて置いて、澤山の蚊を取ることも出来ます。

雌は一回に二百乃至四百の卵を生む。

蚊の子は何人でも御承知の通り、溜水や溝の中にうようよ浮いてゐる子子で、この子子は蚊の雌が生みつけた卵が孵つて出来たものです。二つの卵は恰度バナナの様な細長い形をしたもので、大きさは長さが三厘位、一回に二百乃至四百の卵を一塊にして水の中へ産み落します。其卵塊は舟の様に水面に浮いて居ます。産み落されてから一二日する迄、その中に小さい子子が發生し、卵を破つて水中に出ます。水中に出た子子が大きくなつて、蛹となり、終に蚊となつて水面から飛び上るのです。子子や蚊になる迄の浮き沈みで、こんなものでも中々一人前の蚊になる迄には中々手数のか

かるものであります。しかし日数は早いもので、卵から蛹蛹から蚊になるまでには十日遅くても

蚊ノ變態 (一)卵塊 (二)幼蟲 (三)蛹 (四)成蟲 (イ)雌 (ロ)雄



二週間位であります。子子や蛹は何を食うて成長するか。

子子は水中に於て極めて活潑に運動し、水中の細菌を食つて度々脱皮しつゝ成長するのであります。頭の前端には刷毛のやうな毛があり、之を動かして水中の細菌を口に引き寄せ、て食うのであります。又體の後端に近い所に細長い管があつて、之れを水面に出して呼吸をします。即ち水中に居ても時々水面に浮



び上つては頭を下にし倒になつて呼吸をするのであります。子は水中では呼吸をすることは出来ないから、必ず水面へ浮び出ねばならないのであります。それ故に水面に石油を流して置けば死んでしまひます。子の成長する際の脱皮は三回で之から蛹になります。蛹は頭の方に二本の呼吸管を有し、普通の子より頭部大にして鬼子子と申すものであります。二日間蛹である。今度はいよく蚊になつて水中から飛び出すのであります。蚊は頭と胸と腹の三部分から成つて居て、頭には大きな一對の眼(複眼)と一對の觸角と口器とがあります。胸には比較的大きな一對の翅があります。腹は細く多數の節に分れて、最後の節に肛門があります。

蚊の鳴聲はここから出るか。

蚊の鳴聲は吻から出るのでもなければ、又翅を振ふ音でも無いのであります。体の両側に氣門と言つて呼吸する孔があります。

胸部の氣門は殊に大きく、その入口にはキチン質の薄い突起があつて、蚊の飛ぶ時には自然と呼吸が劇しくなるものです。から空氣がこの氣門に出入することも亦劇しくなり、それによつて入口にあるキチン質の突起がひどく振動するのでブーンと云ふ音が出るのであります。だから蚊の鳴聲はその氣門の入口にあるキチン質の突起の振動に外ならないのであります。キリ／＼の様に翅を摺り合せて鳴くのものでもなければ、猫の様に喉で鳴くのものでもありません。

蚊にはどんな種類があるか。

蚊の種類は二種類や三種類位ではありません。専門家の調査した處によります。今日まで分つてゐる蚊の種類が三百種餘りあります。學名のちやんと附けてあるのだけでも二百五六十種位あります。随分に多いものであります。何事でも研究して見れば面白



いもので一口に蚊と云つてゐても、これだけ澤山の種類があつて一々特徴がありますから、それ〴〵研究してみると随分面白いものです。又その三百種位の蚊を二十二屬に分類してゐますが、その内最も多いのはキユーレツクス屬で約百三十八種程あります。之に次いで多いのは、アノフェレス屬で、今日まで四十四種程知れてゐます。その澤山な蚊のうちで、吾々の側へ出てくるのは大抵キユーレツクス屬で、次は晝多く出るステゴミア屬(即ちシマカ)及び藪蚊(ハジカ)と云ふ、アノフェレス屬の三つであります。

蚊は病氣の媒介をする。

蚊は恐るべき病氣の媒介をすることは前に申しました。富山縣に割合に多くある瘧(マラリヤ)即ちマラリヤといふ病氣の傳染は全く蚊の媒介から來るのであります。マラリヤ病の原蟲は人の血液の中でもある種類の蚊の体の中でも、無數に殖えるものであります。から

マラリヤ病に罹つてゐる患者の血を吸つた蚊の体の中には無數にこの病原蟲が殖えて居ります。此の蚊が今度健康な人を刺します。マラリヤの病原蟲が健康な人の血の中へ入つて、その人もマラリヤ病に罹るのであります。従つてマラリヤ病を豫防するには先づ蚊を驅除せねばなりません。蚊はこのマラリヤ病の外にまだ九州地方によくあるフィラリヤ病及び亞米利加に多い黃熱と云ふ病氣の媒介をもします。それでは凡ての蚊が皆これ等の病氣を媒介するかと云ひます。決してさうではありません。アノフェレス蚊はマラリヤ病を媒介し、キユーレツクス屬の蚊がフィラリヤ病を媒介し、ステゴミア屬の蚊が黃熱を媒介します。皆それ〴〵専門があるわけであります。

フィラリヤ・マラリヤ・黃熱とはどんな病氣か

フィラリヤ病と云ひます。糸狀蟲と云つて、絲のやうな形をし



た虫が人間の淋巴管に寄生するによつて起る病で、其の爲に淋巴腺がルキレキの様に腫れたり、白い小便が出たり、象皮病といつて皮膚が非常に厚く堅くなつたりします。此の病は熱帯地方に主としてある病氣であります。日本でも近頃九州地方や琉球地方に可成り蔓延して居ます。

マラリヤ病は誰でもよく知つてゐる病で三種ありますが、日本のは隔日に熱が出たり寒さを覺えたりする病であります。昔癩びんオコリオコリと云つたのがこれであり、この病はフランスモデウムと云ふ虫が血液中の赤血球に寄生する爲に起る病氣で、永く治らぬと大層血が少なくなつて貧血病になり非常に體が弱くなります。

黄熱は珍らしい病で、日本には未だ嘗て流行したことはありません。高い熱が出てウイルス病の様に黄胆になる病氣です。主として西半球の熱帯地、南アメリカ及び中央アメリカ其附近の島嶼

に流行します。

キユ。ト。レ。ツ。ク。ス。ミ。ア。ノ。フ。エ。レ。ス。ミ。ス。テ。ゴ。ミ。ヤ。の。特。徴。

前に述べました通り、この三種の蚊が各々異つた三種の病氣の媒介をするのでありますから、それ々の區別をする必要が起つてきます。尤もこの三屬の蚊の詳細な特徴とか、鑑別法は仲々難しいのであります。専門家でさへ往々にして見誤る位でありますから、勿論吾々に取つては可成り困難な仕事であります。が、大体のことは誰にも分ります。以下その三種の蚊の特徴を擧げることゝ致しませう。

(一) キユ。ト。レ。ツ。ク。ス。蚊

(イ) 觸鬚は雌にあつては頗る短いけれども、雄では殆んど吻と同じ位であります。

(ロ) 翅は鱗片で被はれてゐますが、斑紋がありません。



(二) ステゴミア蚊

(イ) 觸角や翅は前のものによく似てゐますが、頭上に幅が廣く、て扁平な鱗片があります。

姿勢の比較

壁の面と平行にまよつてゐる  
キユーレックスの姿勢



壁の面と斜にまよつてゐる  
アノフェレスの姿勢



(ロ) この種類に屬してゐる蚊は、概して美しく、て其肢の節には白い輪がありまして、胸から腹へかけて銀白色の線條と斑紋とがあります。

(三) アノフェレス蚊

(イ) 雌も雄も共に吻と同じ長さの觸鬚を持つてゐます。

(ロ) 翅には鱗片あり又斑點がありまして、體は一様に暗褐色であります。

(ハ) 前二種は壁にごまる時體を壁の面に對して並行にします

が之れは斜めにしてゐます。

以上で大体三種の蚊の特徴を上げましたが、一寸見てこれは何蚊であるかを見分ける要點は、キユーレックスは夜出る普通の蚊です。ステゴミアは晝ばかり出て夜は決して出ることはありません。足に白い輪があつて体が縞になつて居る。俗にシマカと云ふものです。アノフェレスは所謂ヤブカで晝夜出ますが、翅が斑になつて居ることゝ物に止る姿勢とでよく知れます。これ等の蚊の中キユーレックスとステゴミアは卵を下水などの廢水に産みますがアノフェレスは水草の繁れる沼地に産みます。日本全体として一番多いのはキユーレックス蚊であります。當縣の様な沼の多い所ではアノフェレス蚊も随分居ります。前に申した通りこの種類の蚊も病氣の媒介をしますが、ステゴミア蚊の媒介する黃熱は未だ日本にはないし、キユーレックス蚊の媒介するフィラリヤ病も



九州のある地方に限つて居りますがアノフェレス蚊の媒介するマラリヤ病は随分多くありましてそれが富山縣にも可成りあると云ふことは誠に都合の悪いことでもあります。これは富山縣は平地が多くてこの蚊の子子の出る様な水溜等の多い爲です。どうかして少くしたいものです。

蚊を驅除するにはどうすればよいか。

前にも述べたのですが蚊の發育は誠に早いものでして、今蚊の卵が約三十日後に成蟲となることして其半數を雌とします。次の三十日には四萬五千匹となり更に次の三十日には六百五十七萬匹となる割合であります。この様に發育が早いものですから、只卵一つ残つてゐてもそれが直に何百何千と云ふ風に殖えるものですから従つてその驅除法も仲々困難であります。蚊をすつかり絶滅させることに就いては随分専門家も苦心をしてゐるやうです。

が仲々云ふべくして行ひ難い事柄でありまして、完全に之を驅除する方法は未だないやうであります。然し吾々の注意次第で蚊の發生を少なくすることは出来るのであります。

蚊は瓦斯体には弱いものでありますから燻べ殺すことが出来ます。この材料には除蟲菊の粉が最もよい様です。八疊位の坐敷なれば蚊やり線香を二本も立てて置けば蚊は來ません。又フォルマリンやクロフォルムや石炭瓦斯を使用して蚊を驅除する方法もありますけれどもそれらは何れも根本的の驅除法ではありません。それよりも湿地や水溜りを埋め、下水を改良して蚊の發生地を無くするのであります。當縣人の最も大敵なアノフェレス蚊は河川改良耕地整理等にて水はきを良くすれば非常に少くなり、ます。それから印度やパナマ地方には子子を食ふ魚が居りまして、之を河に飼ひ置けばよいのですが、熱帯地方の魚類ですから、日本で



育つかごうかは分りません日本でも小魚が子子を食ふことは普通ですから態々熱帯からの魚を育てなくとも溝の小魚を濫獲せぬ様に保護すれば蚊は確かに少くなりますまた下水水溜り等に石油を少し流して居けば子子は呼吸が出来ないで皆死んでしま

います  
 兎に角蚊の發生の豫防法としては流し元下水のやうに常に水の溜り易い濕り易い場所を清潔にして石油等を散布して置くか、用水沼地などを整理して水はきをよくするのが一番の得策だと思はれます

蚊の話 終り

大正八年五月一日印刷  
 大正八年五月五日發行



富山市總曲輪二百三十一番地

編纂兼 發行 者 **富山縣教育會**

右代表者 長 島 庸 嘉

富山市東堤町四十一番地

印刷者 山 田 啓 三

富山市東堤町四十一番地

印刷所 山 田 印刷所

電話八六〇番



8.11.3



372

248



終

